



市民クラブ
柴田 文男
議員

定住自立圏形成協定の今後の取り組みについて

質問 定住自立圏については、今後、関係市町との協議の中で、ビジョン策定が進められることになっているが、本市として特に推進すべきと考える分野、取り組みについて伺う。

また、災害時の情報の共有のため、コミュニティFMを今後議論の対象とする考えについて伺う。

答弁 定住自立圏形成協定の18の協定項目については、全てが重要な分野ですが、あえて住民と関連の深い分野を例示するとすれば、「広域防災体制の連携推進」、「圏域医療体制の充実」が挙げられます。中空知圏域における住民の安全と安心のため、さらには圏域人口の定着に資するよう、関係市町と十分に協議を行いながら、中空知の定住自立圏構想をより良いものにして行きたいと考えています。また、防災における情報提供手

段としてのコミュニティFMの広域化についても、国や関係機関にその必要性について働きかけていきたいと考えています。

公共施設マネジメント計画について

質問 用途廃止後の公共施設については、再利用・取り壊し・売却等の手続きが進むものと思われるが、民間活力の導入を進めるべきであり、民間需要を掘り起こすためには弾力的な条件設定が重要となる。これらを踏まえての今後の取り組みについて伺う。

答弁 公共施設マネジメント計画では、使用の見込みがなくなった公共施設については、最大限の利用促進のため、積極的に譲渡や有償貸与を進めるとしており、得られた財源を存続する公共施設の維持管理に充てることを原則としています。ご指摘の通り、民間との対話や意見交換を通じて、民間ニーズに適合した手法を検討し、市民の財産である公共施設の処分であることを念頭に、適切な対応がなされるよう検討したいと考えています。



新政会
山口 清悦
議員

滝川市の中心市街地について

質問 本市の中心市街地とはどの地域を指すのか。また、そこが中心市街地であるという理由は何か。時代と環境により移り変わることもあるし、伝統として変わらないものもあるとのことだが、市長の見解を伺う。

答弁 本市の中心市街地の区域は、平成20年の中心市街地活性化基本計画に定めた区域広さにして92・5ヘクタールで、滝川市都市マスタープランでも同様の指定をしています。古くから駅前・官庁街が結ぶベルロードを軸として商店が軒を連ね、人・物・情報が集まってコンパクトな街を形成していました。時代の変化により国道38号や国道12号バイパスに移っていると考えられる人もいますが、歴史的背景や経緯がある中で、現在の都市機能があると考えます。今後も歩いて集える範囲に再整備をしていきたいと考えています。

栄町3―3地区の現状について

質問 ビル所有者である金市館と高林デパートとの折衝はしているのか伺う。市の役割として民間事業者が使える補助金を探すことその他に何かあるのか、また、再開発に際し想定している業種は金融機関と福祉施設とのことだが、公共施設を入れるつもりは全く無いか伺う。市長は近い将来、この地区がどのようなようになるべきだと考えているのか伺う。

答弁 金市館は、事業提案はされましたが実施主体が見つからず計画が止まっています。高林デパートは、三番館が撤退することで7月末の閉鎖が決まり弁護士を通じて清算行為をしたいと聞いています。市の役割としては、例えば国の補助金が該当する場合でも、市にも相応の負担が生じると考えています。また、想定している業種は全ての商業施設と考えており、公共施設は、今後の話し合いの中で考えていきたいと思っています。民間の自助努力を後押しして、市民が歩いて集える賑わいのある交流の場となればと考えています。